

事例研究報告

小学部中学年知的障がい・自閉症 の児童が嚙んで食べることができる ための取組について

※個人の特定を防ぐため、
一部スライドを削除しています。

児童の実態

・食形態

ご飯 . . . 軟飯

副食 . . . 粗きざみ

パン . . . ちぎって
牛乳に浸す



児童の実態

- ・牛乳はストロー飲み。
- ・全量一人で食べることができる。
- ・幼児用の改良スプーンを使用。
- ・口に入れたらすぐに飲み込み、口の動きは少ない。
- ・スプーンですくう量が多く、すくった時や口に運ぶ時にこぼしやすいため、改良食器に一口分ずつ入れて提供。
- ・「おかわりください」カードを手渡して、おかわりを要求することができる。
- ・「どっちがいい？」と尋ねると食べたい方をタッチして答えることができる。
- ・食べ物好き嫌いが分かりやすい。

保護者の願い

- ・丸呑みせず、噛んで食べてほしい。

教員の願い

- ・口の動きを増やしてほしい。
- ・給食を安全に、おいしく食べてほしい。

○食形態について

- ・ 摂食嚥下機能に問題はなし。
- ・ 食具食べ機能獲得期の後期～完了期の段階。

現在の食形態（粗刻み）は実態に合っていない。

ご飯は普通食、おかずは軟菜に変更して、咀嚼の様子見るといい。

（軟菜が無ければ、はさみで一口大に再調理）

○食べ方について

- ・ スプーンで適切な量すくう経験を積み重ねる。
△口に詰め込みすぎないように、量に気を付ける。
- ・ 自分が食べたいものから食べることができるよう、お盆に全ての品目を並べておく。
- ・ きゅうりやパンで噛み切る練習をする。

助言を受けての見直し

- ① 粗刻み食から普通食へ食形態を変更
- ② 適切な一口量をすくう練習
- ③ お盆に全ての品目を並べる
- ④ パンを噛み切る練習

指導の成果

① 粗刻み食から普通食へ食形態を変更

- ・ 基本的に2～3cm程度の大きさにして提供した。
豆腐等のやわらかいものはそのままの大きさを提供した。
- ・ 普通食に変更後すぐは、一度口に入れても吐き出すことが多かった。
特に、固いものや大きいものを吐き出すことが多かった。
切り込みをいれたりスプーン裏でつぶしたりすると吐き出すことは減った。
- ・ 普通食へ食形態を変更したことで、口の動きが増えた。

指導の成果

② 適切な一口量をすくう練習

- ・ お皿に2・3口分の食材を入れておき、一口分すくって食べる練習から始めた。
- ・ 一度にお皿にある食材を全てすくおうとすることが多かったため、離れた位置に置いて提供した。



- ・ 慣れてくると、半分程度入れたお皿から、自分で一口量をすくえる時もあった。



指導の成果

③ お盆に全ての品目を並べる

- ・ お皿に左手を添えたり、奥にあるお皿と手前にあるお皿を入れ替えたり、食事がしやすくなる動きを身につけることができるようになってきた。

④ 噛み切る練習

- ・ ご飯をスティック状にしたものは、唇で一口分取り切ることができた。
- ・ パンをスティック状にしたものは難しかった。

○「噛み切る」ことについて

- ・ 前歯で噛み切る経験がないため、噛むことが難しい。
- ・ 「噛む」「噛み切る」ことにつなげるためには、現在の大きさ（2～3cm）は飲み込めるため小さい。はさみで切らず、そのままの大きさを提供してもいい。

【噛み切る練習方法】

- 1) 「そのまま・中間・一口分」の3つの大きさのものを用意して、置いておく。
スプーンですくいやすい一口分の大きさのものを選んで食べると思われるので、時々教師が大きいサイズの食材を口元に運び、かじることに挑戦できる機会を設定する。
- 2) お菓子をそのままの大きさを提供し、「手づかみ食べ」に挑戦できるようにする。
せんべい等の割れやすいものがいい。
教師も一緒に食べて、模倣しやすいようにする。

○提供の仕方について

- ・小分けにして提供しなくてもいい。

○固い食材について

- ・固いものも、そのままの大きさを提供し、食べなければ食べないでいい。
やわらかいものを噛み切ることができるようになると、固いものも食べやすくなる。

助言を受けての見直し

- ① 噛み切る練習
- ② 小分けにせず、全量入れた状態で提供

指導の成果

① 噛み切る練習

【給食時】

- ・ やわらかいものは、そのままの大きさのものにフォークを刺しておくのと、少量ずつではあるが前歯で噛み切って食べることができた。
- ・ 固いものは難しかったが、前歯で噛み切ろうと何度も挑戦する様子が見られた。



指導の成果

① 噛み切る練習

【おかしの手づかみ食べ】

- ・せんべいは、両手で一口サイズに割って食べようとする
ことが多かった。
- ・口元に持っていきたり、片手で持つよう促したりすると、
前歯で噛み切ることができた。
- ・噛み切った後に奥歯で噛むことは難しかった。
- ・噛み切ったものが大きかった時は、そのまま吐き出すこと
が多かった。

指導の成果

② 小分けにせず、全量入れた状態で提供

- ・初めは一口分すくうことが難しそうだったが、すくいすぎた時には、口には入れずもう一度お皿に戻してすくい直すなど、工夫する姿が見られた。
- ・改良食器の使用をやめたことや、自分で一口量をすくいとることで、すくい方や一口量の調整が上達した。



ここが成功のポイント

慎重になりすぎて食形態を変更する等、次の段階に向けて挑戦できる手立てを実施できていなかった。



コンサルテーションの指導助言を受けることで、安全を確保しながらも挑戦する機会を設けることができた。